

復活節第7主日(白)

主日礼拝

2026年5月17日 10時20分～

司式:

奏楽:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「祈られている」

『イザヤ書』は、「第二イザヤ」(40～55章)と呼ばれる部分であり、バビロン捕囚の中にあるイスラエルの民に対して語られた預言です。主なる神がペルシア帝国の王キュロスを「油注がれた者」と呼び、彼を用いて御自分の計画を実現されることが語られます。キュロスは、後にバビロンを征服し、捕囚となっていたユダヤ人の帰還を許すのでした。キュロス自身はイスラエルの神を知らない異邦人であったにもかかわらず、神が彼を選び、歴史の器として用いられるのです。「光を造り、闇を創造し、平和を造り、災いを創造する者。私は主、これらすべてを造る者である」と語られます。世界のあらゆる出来事が神の支配の外にはないことを示そうとしているのです。捕囚という苦難も、回復という救いも、歴史全体を導く唯一の神の御手の中にあるという力強い信仰告白となっています。

『ヨハネによる福音書』は、「大祭司の祈り」と呼ばれる主イエスの祈りの冒頭部分です。十字架での死の前夜、父なる神に向けて深い祈りがささげられました。主はまず「時が来ました」と述べ、自らの受難と死、復活の時が到来したことを確かめられます。さらにこれらを通して、主がすべての人を支配する方であることが現され、父なる神にも栄光を帰すことができるよう願われます。十字架の苦難を通して神の愛と救いの御業が現されるのです。また、父なる神と主が一つであるように、弟子たちもそうであるよう祈られます。そして最後に、弟子たちが信仰による喜びに満たされるよう願いながら祈りを結ばれます。その祈りを実現させるために主は苦難の道を行かれるのです。主イエスは今も生きておられ、私たちのために執り成し、祈ってくださいています。そこに私たちの幸いがあります。

《神の招き》

前 奏 『我が命なるキリスト』 J. S. バッハ
 招 詞 歴代誌下7章15節
 賛 美 歌 475

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
 聖 書 イザヤ書45章1～7節 (旧約1119頁)
 ヨハネによる福音書17章1～13節 (新約 197頁)

子ども説教
 交読詩編 詩編102編13～19節 (118頁)
 賛 美 歌 338

説 教 「祈られている」 八木浩史牧師
 祈 禱
 賛 美 歌 337

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
 献 金
 祈 禱 献金当番
 主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 27
 祝 福
 報 告
 後 奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
 音響: 映像: